

博物館実習を終えた感想

私は近隣の博物館や旅先での博物館に興味・関心があって立ち寄ることがよくあり、そこで実物を見て、また触れて得られた感動を伝えたいと思い、学芸員の資格取得を目指し、定年退職後に放送大学に入学しました。今回、博物館実習を受講できることになり、約40年ぶりに学生に戻り、期待と不安の気持ちを抱いて、九州産業大学の門をくぐりました。オリエンテーションで、先生方の紹介や説明があり、とても穏やかな雰囲気を感じました。この時、緒方先生から「慮る」という言葉を初めて聞き、今、実習を通して、人やモノ(作品)を慮る大切さを学ぶことができた実感しています。オリエンテーションでは、課題提出などで使うK'sLifeの利用方法について説明がありましたが、隣に座っていた九州産業大学の学生さんが懇切丁寧に教えてくれたので、大変助かりました。

私は佐賀市から通学しましたので、実習日は、朝早起きして6~7時台の電車で通学し、帰りは夜8時頃に帰宅していました。疲れはありましたが、実習はグループワークや反転学習を取り入れたアクティブラーニングが中心だったので、飽きることなく、毎日が新鮮で、とても充実していました。

見学実習で特に印象に残っているのは、大牟田市動物園です。子供が小さい時、数回遊びに連れて行ったことがありましたが、園長さんのお話から「動物福祉を考える」コンセプトについて初めて知りました。環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングを取り入れ、動物の個の福祉や状態の観察など、動物側に立って飼育を行い、動物の心や体を大切にしている気持ちが深く理解できました。

作品梱包実習では、反転学習で、事前に九州産業大学のオンライン教材を何回も視聴して作業に臨みました。実習当日は、美術品専門輸送業者のヤマトグローバルロジスティクスジャパン(株)の方々に指導をいただきましたが、実物を前にすると、緊張や映像とは違うところもあり、なかなかうまくいきませんでした。特に、掛軸は収めるとき、タケノコ状になり、苦労しました。「考えて行うより、力を抜いて親指の感覚で行うように」との指導を受け、何回か練習し、少しはうまくできるようになり嬉しくなりました。そして、二つとない作品を大事に扱うことの大切さがよくわかりました。

実習の中で、最も苦労したのは、展覧会の企画から考える展示制作実習です。まず九州産業大学美術館の展示室の作品を鑑賞した後、グループで企画ミーティングをしました。しかし、肝心のテーマを決めることが難しく、はじめはメンバーの一人が出した仮のテーマに沿って進めていきました。グループの皆で展覧会絵巻や平面図シミュレーションを作成し、コンセプトを考えていく中で、二転三転しながら、ようやくみんなが納得できるテーマを創造することができました。

実習の中で楽しかったことの一つは、博多座での歌舞伎鑑賞です。私は博多座に来館することも歌舞伎を鑑賞することも初めてで、歌舞伎鑑賞は難しかったですが、煌びやかな衣装や舞台装置、また照明の濃淡の効果などで、ストーリーの雰囲気の演出の工夫など、博物館の展示に通じる学びが得られました。

最後に、この博物館実習では、学芸員に求められる多くのことを学ぶことができました。国民一人が年間1.1回しか訪れない博物館をいかにして利用させるのかという課題を少しでも改善できるよう、今後は障がいのある方を含めた利用促進も考え、その一助になりたいと思います。

後輩に伝えたい事

実習の活動内容を忘れないように、実習日誌とレポートはできるだけ早いうちに仕上げた方がよいと思います。そして、博物館実習の受講を希望した志を肝に銘じ、受け身ではなく、積極的に実習に取り組むことをお勧めします。そして、様々な博物館関係の催しについても、普段から情報を集めて、できるだけ実際に訪問して学ぶ機会を設けてほしいと思います。